

令和5年度 FD 実施計画書・報告書

令和6年4月

I 学部学科・研究科名

食物栄養学科

II-1 実施計画①【概要】

II-2 実施報告①【概要】（年度末記入）

取組N°	A FD センター重点項目	FD2021 取組項目	A FD センター重点項目 達成内容
1	DP 達成度評価の現状と課題抽出・計画策定 ・DP ルーブリックの策定 ・DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討 ・アセスメントプランに基づく成果の検証と公表の開始	I-1-(1)	すでに DP ルーブリックの策定の策定を完了しており、新たにカリキュラムマップも作成している。策定に当たり、達成度が不足する分野において令和6年度より新科目を設立することとなった。アセスメントプラン案の共有は完了しており、成果の検証は新たに導入した GPA-Academic の結果も併せて成績分布との相関を検討した。次年度は卒業後アンケート内容と併せて検証を継続する。
2	授業ルーブリック・課題ルーブリックの推進 ・各学科におけるルーブリック導入率（授業ルーブリック・課題ルーブリック）の向上 ・ルーブリックの実効性検証	I-2-(1)	食物栄養学科はルーブリック導入に積極的に取り組んでおり、令和元年度に専任教員全員の導入が完了しており、共通のフォーマットの共有も完了している。専任教員全員授業ルーブリック及び課題ルーブリックの導入が完了している。実効性の検証は授業アンケートを基に検証を行い、ルーブリックを用いることで学生に対してより明確に到達目標を提示することができた。次年度は独自にルーブリックに関するアンケート調査を実施する予定である。
3	Society 5.0 の到来に備えた DP/CP の見直し ・数理・データサイエンス・AI に関連する科目等の実施状況の振り返り及び拡大（情報教育センター・教養教育センター及び各学科へ検討依頼）	I-1-(4)	現在開講している科目より、数理・データサイエンス・AI に関連する科目を抽出し、受講者数、シラバスより到達目標、授業内容を共有した所、現在開講している情報処理の実習の内容と重なる部分が見つかった。食物栄養学科は専門科目が多く、データサイエンス関連科目の履修者数が少ないため、学生全員が履修している「入門情報処理実習」等で内容を強化することとなった。
4	「成績評価ガイドライン」のポリシー策定 ・「成績評価ガイドライン」のポリシーの運用開始、実効性の検証	I-2-(2)	成績評価ガイドライン要領の共有は完了しており、令和4年度の全科目成績分布も学科内で共有している。今年度の学科専任教員の全科目の成績分布を基に科目レベルでの検証を行い、学科 FD 研修会で情報共有を行った。

5	各学科・研究科内 FD 研修会と情報共有の場の推進	I-2-(3)	学科 FD 研修会（助手含む）を年 5 回開催予定（前年度より 1 回増）で、情報共有、意見交換を行った。加えて新科目設立など FD に関連する事項については学科会議にて検討を行った。来年度は授業期間外を中心に開催時期を設定する予定である。
取組 N o.	B その他取り組み項目		B その他取り組み項目 達成内容
6	オンライン授業と対面授業の両立による教育効果の検証および改善 ①栄養士養成における ICT を活用したオンライン授業と対面授業の両立による教育の推進と効果検証 ②実践力ある栄養士養成のためのカリキュラム構築（授業科目・教育課程の再編成 ③短期大学部全体での編入学支援の強化に加え、学科における個別支援のさらなる強化		① 全教員が対面授業における WEB コンテンツの活用方法について現状報告を行った。予習・復習の為の授業資料事前・事後配信は全教員で取り組まれており、授業アンケート結果においても「ICT の活用」の項目では全教員が 90% を超え、自由記述でも教育効果の高さが窺えた。 ② 「4 号館食堂運営」を令和 5 年度より授業内に取り入れ、コンポストの実施、企業との連携強化など、実践力を身に付けた人材育成に取り組んだ。また新 DP 策定にあたり、実践力を修得するための新科目の設立に取り組んだ。 ③ 従来の学科独自の取り組みに加え、短期大学部編入学支援委員会との連携を強化し、栄養士系以外の編入支援の強化に取り組んだ。 6 月には学科独自の編入学説明会を実施した。
7	社会・地域貢献活動の強化と学生の参画によるキャリア教育の推進		学生参画で以下の取り組みを行った。 ・包括連携協定を締結している柳川市との産学官連携による食開発 ・柳川むつごろう会との連携による柳川の農産物（じゃがいも、とうもろこし）の普及活動 ・福岡県水産海洋技術センターとの産学官連携による、未利用食材の一般流通促進活動 ・カゴメ株式会社主催「給食レシコンテスト」（2 年生全員が応募した） ・「トライアルグループ株式会社明治屋×食物栄養学科『お弁当プロジェクト』」（1 年生全員が応募） ・「トライアルグループ株式会社明治屋×食物栄養学科『九州 DON !! プロジェクト』」（2 年生全員が応募）

		・山口九州地区青森りんごの会「青森りんご」コラボイベント ・JA 筑前あさくら「紅タデ」普及活動 ・福岡大同青果株式会社「ベジフルスタジアム」フィールドワーク (1 年生全員が参加) ・トーフミート株式会社「トーフミート」普及活動 ・医食同源生薬研究財団との共同研究「保育所給食の質が新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染状況に及ぼす影響について」 ・SOELU・株式会社ビッグコマースと協同販売のオリジナルの雑穀米「わたしの雑穀 28」販売強化 ・南州農場全粒粉を使用した菓子の開発（ポルポローネ、シフォンケーキ） ・福岡県学校給食会親子支援事業「野菜を使ったおやつ講習会」 ・高大接続探求学習ワークショップ「今日から始めよう！食品ロス削減」 ・福岡大丸ホノルルクッキー製造、販売 ・JA 福岡市博多じょうもんさんの規格外野菜、未利用野菜を 4 号館食堂にて用いて、食材ロス削減 ・城南区行政機関長（三水会） 食物栄養学科活動報告 ・城西団地との連携事業（2 月実施予定）
8	卒業生を対象としたオンラインによるリカレント教育システムの構築および栄養士ブランド校イメージの浸透と情報発信 ① 「管理栄養士国家試験受験準備講習会」のオンライン講座推進 ② 「食物栄養学科卒業生専用サイト」の変更と導入後の効果検証 ③ 付属幼稚園・保育園との共同による食に関する情報発信 ④ 栄養士養成課程における食の循環型学習の取り組み	① Teams を用いた「管理栄養士国家試験受験準備講習会」にて新たに「社会・環境と健康」を新設し出題範囲全科目を開講した。 ② 公式 LINE アカウントを立ち上げ、卒業生アンケート実施、管理栄養士国家試験受験準備講習会の情報などを発信した。 ③ 付属幼稚園児の生活習慣(食生活)に関するアンケートを実施し、保護者支援の為、食生活の改善点を抽出し、学会発表、研究紀要執筆を行った。また食べ残しゼロレシピ集及びホームページ作成、Instagram 作成を行った。

		④ 調理実習で出た生ごみを、全てコンポストを利用して堆肥化し CO2 削減に寄与した。その堆肥を利用した学内農園の食の循環型学習に取り組み、学生の意識や行動変容についてアンケートを用いて評価した。
--	--	---

Ⅲ-1 実施計画②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】

Ⅲ-2 実施報告②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】 (年度末記入)

取組 No.	予定時期	内容	実施日	達成内容(未達の場合は理由を記載)
1	4 月	DP ルーブリックの策定 DP ルーブリックの共有	4 月 6 日	令和 4 年度に策定した新 DP ルーブリックを学科会議にて提示し、学科の教育方針について統一の見解を共有した。
6	5 月	実践力ある栄養士養成のためのカリキュラム構築(授業科目・教育課程の再編成) カリキュラムの見直し	5 月 11 日	新科目「食物総合演習」の設立に向けて、授業内容を検討し、認定科目とすることとなった。コンポスト活動をはじめとした、食の循環型学習を主として、その他地域産業・企業と連携した取り組みを計画することとなった。
6	6 月	実践力ある栄養士養成のためのカリキュラム構築(授業科目・教育課程の再編成) カリキュラム再編成	6 月 1 日	新科目「食物総合演習」の開講に伴って、現状のカリキュラム、全教員の担当科目の見直しを行った。
1,5	7 月	DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討	7 月 5 日	アセスメントプランを学科全員に共有し意見交換を行った。効果の検証は 3 月に行う予定である。
5,6		実践力ある栄養士養成のためのカリキュラム構築(授業科目・教育課程の再編成 新カリキュラム構築		新科目「食物総合演習」の到達目標、授業内容を再検討し、新設の為の教務上のスケジュールを確認して意見交換を行った。
5,6		短期大学部全体での編入学支援の強化に加え、学科における個別支援のさらなる強化		今年度の学科独自の編入対策の取り組み、連携推進部との連携の状況など情報共有を行った。担当者より 6 月に行った食物栄養学科独自の編入学説明会(他大学編入希望者も含む)の実施報告がなされた。
6	8 月	実践力ある栄養士養成のためのカリキュラム構築(授業科目・教育課程の再編成 前期の取り組み総括	8 月 3 日	前学期に取り組んだ、4 号館食堂運営、コンポスト活動、各企業・自治体との連携など学科新事業を取りまとめ、後学期の事業スケジュールの検討を行った。また、次年度の新科目において継続して取り組む内容等を検討した。
2,5	10 月	授業ルーブリック・課題ルーブリックの推進 ルーブリックの実効性検証	3 月 7 日	授業アンケートを基に検証を行い、ルーブリックを用いることで学生に対してより明確に到達目標を提示することができた。次年度は独自にルーブリックに関するアンケート調査を実施する予定である。
5,6		栄養士養成における ICT を活用したオンライン授業と対面授業の両立による教育の推進と効果検証	10 月 2 日	全教員が対面授業における WEB コンテンツの活用方法について現状報告を行った。予習・復習の為の授業資料(パワーポイント、PDF、動画)事前・事後配信は全教員で取り組まれており、講義を録画し授業後に配信する授業もあった。授業アンケート結果においても評価が高く、教育効果の高さが窺えた

5,6		令和 5 年度前期授業結果公表と授業改善		前期の授業アンケート結果について全教員より報告し、共有した。新たに取り組んだ 4 号館食堂運営アンケートでのテキスト分析では「実践力が身についた」と実感する学生が多くみられた。自由記述では実験実習・講義両方において、「事前事後の授業資料配信」「小テスト」があることで学習効果が向上することが窺え、改善点は「授業の進行速度」が最も多く挙げられた。
3,5	12 月	数理・データサイエンス・AI に関連する科目等の実施状況の振り返り及び拡大	12 月 7 日	現在開講している科目より、数理・データサイエンス・AI に関連する科目を抽出し、受講者数、授業内容等を共有した。カリキュラム上、データサイエンス関連科目が少なく、学生も触れる機会が限られているため、現状の情報処理実習にて内容を強化し、学生への意識付けを行うこととなった。
5,8		卒業生を対象としたオンラインによるリカレント教育システムの構築および栄養士ブランド校イメージの浸透と情報発信		① Teams を用いて「管理栄養士国家試験受験準備講習会」を 9 月開講し、現在 22 名が受講中である。今年度は新たに「社会・環境と健康」を新設し、出題範囲全科目を開講した。12 月には対面・自宅受験併用の模擬試験を実施し、5 名が対面で受験した。 ② 21F 卒業生を対象に公式 LINE アカウントを立ち上げ、卒業生アンケート実施、管理栄養士国家試験受験準備講習会の情報などを発信した。 ③ 付属幼稚園児の生活習慣(食生活)に関するアンケートを実施し、保護者支援の為、食生活の改善点を抽出し、学会発表、研究紀要執筆を行った。 ④ 調理実習で出た生ごみを、全てコンポストを利用して堆肥化し CO2 削減に寄与した。その堆肥を利用した学内農園の食の循環型学習に取り組み、学生の意識や行動変容についてアンケートを用いて評価した。
1,5		アセスメントプランに基づく成果の検証と公表の開始		成果の検証は新たに導入した GPA-Academic の結果も併せて成績分布との相関を検討した。次年度は卒業後アンケート内容と併せて検証を継続する。
4,5	3 月	「成績評価ガイドライン」のポリシーの運用開始、実効性の検証	3 月 7 日	成績評価ガイドライン要領の共有は完了しており、令和 4 年度の全科目成績分布も学科内で共有している。学科専任教員の全科目の成績分布を基に科目レベルでの実行性の検証を行い、学科 FD 研修会で情報共有を行った。
5,7		社会・地域貢献活動の強化と学生の参画によるキャリア教育の推進	2 月 8 日	現在取り組んでいる企業・自治体との連携事業について、学科内で共有し、それぞれ今後の展開や新たな取り組み内容について検討を行った。令和 5 年度は大変活発に社会連携活動を行っており、次年度も継続する取り組みも多い。

5,6		令和 5 年度後期授業アンケート結果公表と授業改善	3 月 7 日	後期授業アンケート結果報告を全教員より行い、ICT 教材の教育効果、ルーブリックの効果検証と併せて、改善点を抽出し意見交換を行った。次年度は各授業において、中間アンケート実施し、授業期間内の改善に繋げることとなった。
-----	--	---------------------------	---------	--